

年次報告書
(ホームページ掲載版)

2023 年度活動報告
2024 年度活動計画



2024 年 4 月

特定非営利活動法人
サヘルの森

〈目次〉

小島通雅さんの思い出	1
2023 年度現地活動報告	2
2024 年度現地活動計画（2024 年 1 月～12 月）	8
国内活動－2023 年度活動報告・2024 年度活動計画	10
監査報告書	15
運営委員・監事名簿（2024 年度）	16

〈表紙の写真〉

カソマブゲー村の実践者・イーサ・ジャラ氏が育て
る、在来種カイセドラの林

〈裏表紙の写真〉

配布苗を手にして喜ぶコーサ村の村人たち

令和5年12月25日に小島通雅さんがお亡くなりになりました。享年87歳でした。

小島さんは、サヘルの会の発足メンバーであり、1987年の現地調査団の時からマリに入って現地活動全般の指揮を執っておられました。その後も会の代表として、毎年のようにマリに渡航され、技術的な柱として活動を支えて下さいました。活動方針も、小島さんの考え方（コジマイズムと呼ぶ人もいた）に基づいて進めてきた経緯があります。ご冥福をお祈りすると共に、この場をお借りして皆様に小島さんの思い出をご紹介します。

私は、マリ北部のティンナイシャ村で初めてお会いしました。1988年のことです。砂丘の上にゴザの家を建てて拠点としていた頃です。当時の小島さんの印象は、大変厳しい方というものでした。村人にも厳しいが自らにも厳しい。後日、現地を見た運営委員の方からは、「コジマ道場だね、まるで修行僧みたいだ」と言われたほどです。

当時の様子をご本人の文章によく表されています。1987年マリ現地調査団の帰国報告として、機関誌サヘル第3号に掲載された「砂と人と」から抜粋しました。



■昼寝にクールダウンの意味があったとは知らなかった

『小生、ODAによるプロジェクトを敵視している訳ではない。しかし、ODAの大規模開発のムダにはきづくし、正直のところ怒りさえ感じることも多い。小生には、そうした怒りを行動のエネルギー源にしているところがある。（中略）エネルギーの充電には好いが、余り見すぎるとオーバーチャージになって爆発ということになる。従って、時としては適当に理由をつけて断り、あるいはフテ寝をしたりする。』

■村人との付き合いはむずかしい

『プロジェクトをするにあたって現地の人達の意見を聞いて。これはあたり前のことだが、実際はなかなかむずかしい。何処でもそうなのかも知れないが、現地の住民には二つの層がある。一つは村を代表して対外的にものを言う層、もう一つは一般の村人層。ただ、ティンナイシャの場合、前者が役人、学校の先生達であって、後者の村人層から選ばれた人達ではない。（中略）前者の代表権をたてつつ如何にして後者のために活動して行くかむずかしい。むずかしい。』

■怒って一人で帰る小島さん、私の一番好きなエピソード

（旧湖底の村人が昼食を用意してくれたのだが、教員や役人はそこでは食べないという）『そんな連中と一緒にの車に乗って行ってこれを食うつもりはないと小生も強硬。「おれは歩いて戻る」と、他に一人二人が同調。歩き出したところ、ついに折れてここの家で食べようということになる。（中略）結局、学校の先生代表と役人だけが入って我々と食事、主人は一緒に食べず。』

2023 年度現地活動報告

2023 年のマリでは、前年のフランス軍の撤退に続き、6 月末にこれまで 10 年間継続されてきた国連平和維持活動（MINUSMA）がマリ暫定政府の要請により終了しました。9 月にはマリ暫定政府は、同様にクーデタを経て誕生した隣国のブルキナファソ政府とニジェール政府と共に「サヘル諸国連合」という安全保障協定を結び、3 国の軍事・経済的な結びつきを強めています。この枠組みの裏にはロシアの協力があり、11 月には、トゥアレグ人世俗派武装勢力（CMA）との和平合意を反故にする形で、CMA の拠点であったキダルを制圧しています。2024 年 1 月には、マリ暫定政府は西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）からの即時脱退を表明し、これまでの関係を清算して新たな枠組みでの国家運営を模索しています。暫定政府は 2024 年 3 月に民政移行をする公約を掲げていましたが、実施されるかは非常に不透明です。北部や中部のみならず、南部でも情勢の混乱が起こる可能性もあり、情勢を注視していきます。

2023 年度の現地活動は、マリ南部のファナ地域において行いました。前年は干ばつの影響を受けましたが、2023 年は雨期の雨の降り始めが遅かったものの、いつもは乾期に入る 9 月になっても降雨が多く、トウモロコシやミレット、綿花の収穫量は例年より多くなりました。当然、植えた樹木の生育も大変良かったようです。日本人の派遣については時期を決めずに予定していましたが、治安問題から派遣を取りやめています。そのため、マリ人スタッフと協力者である実践者により、里山再生の活動を継続しました。3 期目の新実践者の選抜は、候補者 20 名から新たに 5 名を選んで行いました。新実践者を希望する住民が多く、候補者が多くなってしまいましたが、その中から選りすぐりの 5 名を選ぶことができました。試験地では、在来種（チャンガラやシアバターノキ）の育成・管理を中心に行い、直播したチャンガラの実生の生長を確認できました。

①里山再生の新実践者への拡大

会では、樹木を育苗し、植え育て、利用できる人材を育てようと、地域の人的資源を活用して、地域苗畑主→実践者→新実践者へと里山再生に必要な技術や経験の共有を行ってきました（表 1）。まず初めに、地域の中でも高い技術を持つ地域苗畑主のもとで研修を行い、自身の里山で育苗し、植え育て、使うまでを自身で行う「実践者」を育てました。彼らの育てた木々は、今それぞれの里山に大きく育ち、周囲の村人への刺激になっています。

表 1 里山再生実践活動の流れ

第 1 ステージ	第 2 ステージ	第 3 ステージ
地域苗畑主 ➡ 実践者	実践者 ➡ 新実践者	新実践者 ➡ 村人
2015～2018 年	2021～2023 年（第 1～3 期）	2024～
地域苗畑において研修を受けた後、自身の里山での実践を手助けして、地域の先駆者として実践者を育てる。	実践者の同村・周辺村で木を育てることに興味を示す村人から選抜して、自身で育苗し植え育て利用できる 新実践者 を育てる。	新実践者の同村・周辺村の村人を対象に、育苗や植栽の勉強会を開催し、自身で育苗し植え育て利用できるように、経験や技術を共有する。

彼らに続く「新実践者」の選抜も3期目を迎え、先輩実践者の協力を得ながらそれぞれの新実践者が育ち、里山再生の実践の輪が広がっています（図1）。

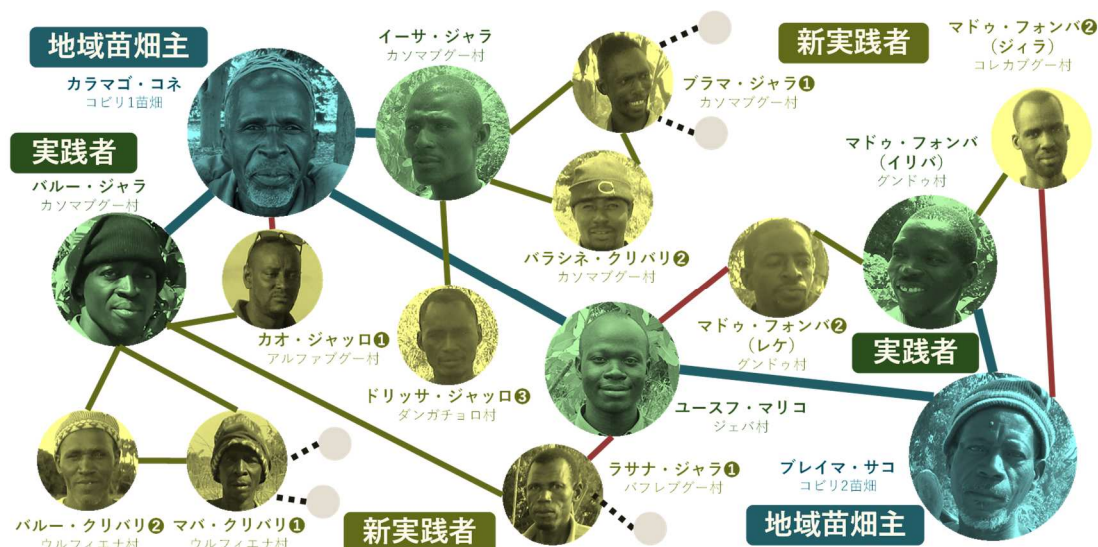


図1 里山再生の人的なネットワーク

新実践者の名前の後の数字：①第1期、②第2期、③第3期
名前の下の（）内：同姓同名を区別するための各自が育成する在来樹名

（1）新実践者候補の開拓と苗木配布

2023年は3期目の新実践者の候補者を開拓しながら、並行して苗木配布を行い、住民による小さな林づくりを進めました。ファナ地域で実践者・新実践者の村々とその周辺村の18ヵ所、計8,110本の苗木を配布しました。2023年は実践者、新実践者の苗畑も増え（表2）、配布した苗木に占める彼らから購入した苗木の割合は、前年の6割から大幅に増えて9割近くになりました。



表2 購入先苗畑

地域	苗畑名
ファナ (12ヵ所)	ファナ2、タンバブグー、フガニ（以上、地域苗畑）、カソマブグー1、カソマブグー3、ジェバ1、ジェバ2（以上、実践者）、カソマブグー4、カソマブグー5、ウルフィエナ1、ウルフィエナ2、ジリマシギ、アルファブグー（以上、新実践者）

（2）第1期、2期新実践者の里山再生

第2期（2022年）に選抜した5ヵ村5名の新実践者は前年の12月に設置した苗畑で、2月頃から苗木の育苗を始めました。また、第1期（2021年）の5ヵ村5名の新実践者も前年と同様に苗木づくりを継続して行っています。いずれも、雨期前の乾期植栽（4～5月）、雨期の植栽（5～8月）を各自の里山で、マリ人スタッフ、先輩実践者の助力を得て行っています。彼らの育苗した苗木の行き先は全て把握できませんが、先述したようにサヘルの

森が購入した苗木の他にも、自身で植栽した苗木 590 本を確認しています。また、彼らの植えた樹木はユーカリだけでなく、在来種のカイセドラや染料に使用するアルヘンナ、果樹のカシューナットノキなども含まれています。



<新実践者たちの実践>

1-01：女性用バオバブの床播き《ウルフィエ村・マバ①》

1-02：畑の境にカイセドラ植栽《カソマブグー村・ハラシネ②》

1-03：柵沿いに育ったユーカリ《ウルフィエ村・マバ①》

1-04：配布用にメリナの苗木を購入《ジリマシグー村・マトゥ①》

1-05：農園に育ったユーカリ《ウルフィエ村・ハル①》

1-06：スイズイフィス改良種の育成《コレカブグー村・マトゥ②》

*名前の後の数字：①第1期、②第2期

(3) 第3期新実践者の里山再生

第3期（2023年）の新実践者の候補者については、乾期の2月くらいから各村を訪れ意欲のある村人を見出してきました。その際には、近くの先輩実践者にも同行してもら



それぞれの里山に金網で囲い苗畑を設置

い、彼らの経験や知識を共有してもらいながら乾期植栽、雨期植栽を行いました。地域的な偏りのないように、また、あまり候補者を増やさないように気を付けていましたが、結果的に希望者は増え、17ヵ村20名となりました。最終的にこの20名の候補者から樹木の管理の出来具合を考慮して、5ヵ村5名を新実践者として選抜しました。12月には、この5名の個々の里山に苗畑を設置し、翌年の植栽のための育苗の準備をしました。

②先達の実践者から新実践者への技術・経験の伝達

(1) 新実践者の作業への助力

新実践者・候補者が行う育苗や乾期雨期の植栽作業の際には、近くの先輩実践者に同行してもらい、作業を一緒に行いながら彼らの技術や経験を共有してもらいました。同村あるいは隣村の新実践者、候補者とは知った仲間でもあり、先輩の実践者だけでなく、先輩の新実践者も作業に加わったりして、里山再生の輪が広がっていることを実感しています。

先輩実践者が作業をしながら技術や経験を共有



(2) 新実践者との交流



先輩実践者の里山で候補者たちと交流

これまで地域苗畑主や実践者が取り組んできた里山再生の実践の成果は、彼らを追いかける新実践者や候補者にとって、自身が目指していこうとする将来像を描くためのお手本でもあり、彼らが培ってきた経験はより具体的な指針となります。里山再生を行う仲間として、技術や経験を交換しながら、これまでなかった新しい緩やかな繋がり（人的なネットワーク）を作っています。

2023年は穀物栽培の作業がひと段落する9月に、一部の候補者（10ヵ村10名）を含む延べ27名が参加し、地域苗畑、実践者との交流を2回行いました。

③学校林の育成

毎年、継続的に学校林の育成を支援してきて、ひっきりなしに学校運営委員会の保護者から学校林育成の支援の要望が届くようになりました。特に幹線道路沿いの学校については、道沿いに樹木を列状に植栽して育成すると、万が一事故が起こった際に、事故を起こした車から生徒を守る役目を果たすことが期待されています。

2023 年度は、小学校 2 校の新規学校林育成、小学校 1 校の追加育成を行いました。いずれの学校も学校運営委員会保護者達と協働で、学校林の植栽と柵の設置、管理を行いました。



保護者と共に学校林を育成

2023 年学校林育成

グンドゥ小学校	ユーカリ 134 本	カイセドラ 8 本	金網 5 巻供与
カラバン小学校	ユーカリ 150 本	カイセドラ 8 本	金網 5 巻供与
ウェレケラ小学校	ユーカリ 210 本	カイセドラ 5 本	以前供与した金網を再利用

④里山再生の技術開発を行う（試験地）

カソマブグー村での植生回復試験は、10 月で 5 年目を迎えました（表 3）。以前に耕作地として使用していて、作物がとれないくらい疲弊していた裸地でしたが、現地で手に入る資材で様々な工夫を凝らして、植生を回復させ、樹木を育成してきました。こうした変化に、「どのようにしたらこのように緑豊かな土地に生まれ変わるのか」と村人たちも興味をもち、ちょっとした観光スポットにもなっているようです。

2023 年は新規の試験地は設置せず、背が高く生長した草本の除草や直播したチャンガラ (*Combretum spp.*) などの在来樹の管理を行いました。また試験地は、新実践者たちとの交流にも使われ、里山再生技術のヒントとしてその成果が有効活用されています。

表 3 カソマブグー試験地

試験地 A	試験地 B	試験地 C
2019 年～	2019 年～	2022 年～
平地裸地	傾斜裸地	平地裸地
草木枝束、草本盛土	草木枝束、石組み	草木枝束、石組み
ユーカリ植栽、カリテ・チャンガラ播種	在来種 3 種寄せ植え	チャンガラ直播、ユーカリ植栽

草木枝束：裸地において、風で飛ばされる砂や有機物、草本や樹木の種子を捕捉するために設置する、草本や木の枝を縛った束。里山で利用されない背の高い草本や薪炭材をとった後に放置される木の枝などを利用する。

2) 有用樹の育成

都市への薪炭供給などで疲弊する在来種を自然同様の方法で育成しようと、薪炭材として有用なチャンガラや油糧樹木として有用なカリテ（シアバターノキ、*Butyrospermum parkii*）などの直播試験を行っています。2023 年は、試験地 C で 2022 年に直播したチャンガラの生長が確認できました。さらに生育が促進できるように、施肥やマルチなどを施していきます。



大きく生長したチャンガラ実生

チャンガラ直播：チャンガラはこの地域で薪炭材として最適とされる在来種。チャンガラのポット育苗を試みるが、発芽はするものの、その後枯れてしまう。菌根菌（植物の根に共生する菌で、植物との物質の交換によって成長し、植物に対しても生長促進効果がある）の影響も考えられるため、試したい。一方でチャンガラの種子には翼があり、風で飛ばされて移動し、障害物や吹き溜まりで発芽すると予測し、直播を試みたところ、よく発芽した。次のステップとして、発芽した実生をいかにして速やかに育てるかが課題。

⑤日本人の派遣

2023 年は、時期を特定せずに日本人 1 人の派遣を予定していましたが、治安の回復が見込めないとの判断で、派遣を取りやめました。日本人による活動については、代わりにマリ人スタッフを派遣した活動で補完しました。

表 4 2023 年活動内容一覧

地域	ファナ			
内容	苗木配布	里山再生実践	学校林	試験地
村名	パサマナ、バカリブグー、ニャンコロブグー、グンドゥ、ボリマブグー、ナマブグー、ウルフィエナ、ダンガチョロ、コニ、カソマブグー、コレカブグー、フォフォジャン、バゲブグー、カラバン、ソクラニ、バジャブグー、コーサ、ニヤマトブグー 18カ所 8,110本	実践者:カソマブグー、ニヤマトブグー、タンバブグー、ジェバ、ウエラクラ、グンドゥ、ラジブグー、マナコロ、チチュア 新実践者:カソマブグー、ウルフィエナ、ジリマスギ、アルファブグー、バフレブグー、ボリマブグー、コレカブグー、ダンガチョロ、タンナ・コレカブグー、バゲブグー、パサマナ、コニ、グンドゥ 供与苗 1,310 本 自前苗 590 本	学校林育成： グンドゥ小学校 カラバン小学校 (以上新規) ウェレケラ小学校 3校 515本 学校林管理： ラミニブグー小学校 タンバブグー小学校	カソマブグー 試験地 A（平地） 試験地 B（傾斜地） 試験地 C（平地）
樹種	ユーカリ、バオバブ、スンスン、カシューナットノキ、カイセドラ	ユーカリ、カイセドラ、ズィズィフィス改良種、アルヘンナ、各種在来種	ユーカリ、カイセドラ	ユーカリ、カイセドラ、在来種、チャンガラ、カリテ

2024 年度現地活動計画（2024 年 1 月～12 月）

住民の生活に密接に関わる里山の再生は、単に苗木を配って村人に植えてもらって、森林資源を増やしていくことでは不十分です。地域の中で自ら育苗し、植え育てる人が多く育つことが、持続的に植林をし、自分たちが利用できる生活物資を得て、自然林の再生を助けることにつながっていくからです。近年の里山の疲弊は、村人の生活環境を悪化させ、ますます森林資源へのアクセスを困難にしています。今まで以上に村人が危機感を抱いている現状は、私たちの里山再生の活動を後押ししています。これからも自身で育苗し、植え育て、使うことのできる、地域の核となりうる人材を増やす活動を進めていきます。

今年度は、里山再生を担う実践者・新実践者たちからさらに村人に輪を広げていく活動をファナ地域で進めていきます。交流・勉強会などを通じて、横の繋がりを作り、共に里山再生を進める仲間として人的なネットワークを作っていきます。

①里山再生の新実践者への拡大



新実践者による苗木づくり

これまで、多くの村で自身が育苗し、植え育て利用する人材を育ててきました。彼らが行ってきた里山再生の実践の成果を目にすることで、自分も実践したいと多くの村人が考え、それを実践する機会を作れば、里山の再生も加速していきます。

今年度は、これまで数年経験を積んできた新実践者のもとで、マリ人スタッフや先輩実践者もサポートに加わり、興味のある同村・隣村の村人と共に、育苗や植栽方法を学ぶ「勉強会」を開催し、自ら育苗し、植え育て、利用する人たちを増やしていきます。

②先達の実践者から新実践者への技術・経験の伝達

会が育ててきた実践者、新実践者は、自らが行ってきた里山再生の実践の中で、多くの技術や経験を磨いてきました。その成果も目に見える林となって現れており、新たに始めようとする新実践者や興味のある村人たちにとっては、地域の財産とも言えます。

新実践者や新たに勉強会に参加する村人たちに対して、彼らの実践や勉強会の作業の中で、先輩実践者の経験や技術を、できる限り伝えてもらうようにします。



先達の実践者との交流

また、先達の実践者や地域苗畑主たちが育ててきた里山は、新実践者や勉強会参加者たちの良い手本となり、技術や知識の交換をする場所として交流を進めていきます。さらに地域の里山再生を目指す、緩やかな仲間としての関係づくりも進めていきます。

③学校林の育成



道路沿いの学校林は生徒を守る

今年度も、村で学校を運営していくために保護者で組織された学校運営委員会と協働して、小学校 3～4 校へ学校林の新規・追加育成を行っています。新規学校林の育成は、植えた苗木を家畜からの食害から守るために金網などの資材を供与して行います。さらに、これまで育成してきた学校林も定期的に訪れ、生育状態などを確認しながら、保護者・生徒と共に管理をしていきます。

④里山再生の技術開発を行う（試験地）

裸地化した里山を緑豊かな状態に戻す手法は、里山の荒廃が進むファナ地域の村人たちに驚きをもって受け止められています。実際にそれをまねて実践するかは別にして、里山再生へのヒントになればと考えています。

今年度は、直播したチャンガラやカリテの実生が順調に成長しているので、施肥やマルチなどを施して、大きく育てていきます。また、菌根菌を考慮して、土着のチャンガラの子株の土壌を培土に混ぜて、育苗も試みます。

また、以前機関誌で紹介した、アルファブグー村の保護林についても、里山再生を進めるうえで既存の植生を知ることが重要であると考え、今年度は、現地スタッフと調整しながら、植物相（フロラ）調査をどのように進められるか探っていきます。



アルファブグー村の保護林

⑤日本人の派遣

混乱が続くマリの情勢は、この先非常に不透明で、大きく好転することは望める状態ではありません。前年度は時期を固定せずに 1 ヶ月×1 名の日本人派遣を予定していましたが、今年度は、特別な措置として、日本人の派遣を予定しないこととします。

現場の活動は、前年度に行ってきたように、マリ人スタッフを現地に派遣して、協力者である実践者・新実践者と共に活動を継続していきます。日本人不在でも、活動時間が夜間にずれ込まないなど、危険を回避するような安全管理を徹底していきます。

ミーティング・総会

<会員総会>

2023 年度の通常総会を書面表決、会場・オンラインのハイブリッドで開催（3/19）
（JICA 地球ひろば、東京・市ヶ谷）

<運営委員会>

JICA-NET のウェブ会議サービスを利用して計 5 回開催

開催日：1/09（第 193 回）、2/12（第 194 回）、5/21（第 195 回）、10/01（第 196 回）、12/16（第 197 回）

日本人スタッフ・ボランティアの派遣状況

<2023 年度 派遣実施>

1 カ月の派遣を予定していたが、治安の悪化により中止

<2024 年度 派遣予定>

今年度は情勢の好転が見込まれないため、派遣せず

広報

<機関誌「サヘル」他>

第 112 号（7/1 発行）／ ファナ特集号（11/6 発行）／ 第 113 号（12/20 発行）

<講演・講義>

- ・日本緑化工学会 乾燥地緑化研究部会 オンラインシンポジウム 2022 「乾燥地林の保全と再生を考える」 榎本が講演者として参加（3/04）
- ・町田市上映実行委員会主催 中村哲さんドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともし」上映会 上田が講演者として参加（東京・町田市）（9/01）

<写真展>

- ・千葉支部主催「GOSSI（ゴッシ）ーマリの美しい村 上田隆写真展」会場：JICA 地球ひろば（東京・市ヶ谷）（9/05～18）

<記事掲載>

- ・株式会社皇漢薬品研究所・会報と HP にサヘルの森の活動が掲載
- ・日本緑化工学会誌 2023 年 49 巻 2 号に里山再生活動について掲載

学校との関係

<お話の出前・資料貸し出し他>

- ・横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」（榎本）（4/13）
- ・中央大学附属横浜中学校「特別授業」（榎本）（10/3）

イベント

<2023 年 参加イベント>

2023 年度のイベントは、新型コロナウイルスの 5 類移行で、多くが会場で行われるようになりました。イベント開催が以前のように戻ったこともあり、参加団体も増え抽選に漏れることもあり、以下のイベントに参加することができました。

- ・第 17 回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」(12/02-10)

(『協働ガイドブック』掲載で参加)

2024 年は、イベントの開催状況と担当できるスタッフを照らし合わせて、可能な限り参加をしていきたいと思います。また、会員の皆さんと交流できるように自主イベントの企画が考えられればと思います。皆さんのご協力もよろしくお願いいたします。

機関誌サヘル

機関誌サヘル 112 号、113 号とファナ特集号を発行しました。トラオレさんからのレポートを元に、実践者たちの活動状況を分かりやすくお伝えしました。

◆サヘル 112 号 2023 年 7 月 1 日発行

- ・最近の林業業界の流れ～青森の実践者より～ 工藤義治
- ・新実践者の選抜、3 年目に突入！ 榎本肇
- ・今年も会員総会はハイブリッド開催で行いました 榎本肇
- ・新運営委員、新監事紹介 古賀直樹、柴泰登
- ・あるアーティストの試み 森哲夫
- ・国内活動報告：浦島丘中学校委託式(榎本肇)、小岩第一中牛乳パック回収(高津佳史)

◆ファナ特集号 2023 年 11 月 6 日発行

- ・カソマブグー村に苗畑組合が発足！ 榎本肇
- ・マリ人同士で進めるサヘルの森の活動 榎本肇
- ・新実践者 2022、候補者 2023 榎本肇
- ・ファナの生活 榎本肇
- ・マリ、19 州に分割、バマコは 10 地区に拡大 榎本肇

◆サヘル 113 号 2023 年 12 月 20 日発行

- ・地域で異なる砂漠化の実情 高津佳史
- ・女性にとっての実践者とは？ 榎本肇
- ・マリ共和国 現地の治安について・現地活動の進め方 高津佳史
- ・おもしろ在来種 第 6 弾 チャンガラ 坂場光雄
- ・国内活動報告：中央大学附属横浜中学校 特別授業(榎本肇)

<2024 年の計画>

2024 年も機関誌 2 回、特集号 1 回の年 3 回の発行を目指します。機関誌の執筆者が偏りがちなので、バランスをとった編集を心がけていきます。アフリカ関連の書評やイベント報告など原稿を募集中です、ご協力いただければ助かります。

牛乳パック回収

東京都江戸川区の小岩第一中学校（3月22日）：全校生が自宅から牛乳パックを持参して学校内に集めてもらっています。積み込み作業は生徒会の皆さんが手伝ってくれました。

神奈川県横浜市の浦島丘中学校（4月26日）：資源回収委託式に参加して3年ぶりに全校生徒の前で現地のお話をしました。後日、「福祉委員会」の生徒さんから直筆メッセージをいただきました。式では、2月22日に回収した牛乳パックとアルミ缶の回収金が当会の活動資金として委託されました。

<2024年の計画>

2024年も活動にご協力いただける学校や団体があれば、回収に伺います。デジタル化の進行で古紙市場は縮小傾向にあるそうです。そんな中、牛乳パックは貴重な資源として注目されています。山田洋治商店さんのご協力で細々とでも続けていきたいと考えています。

ホームページ・ブログ・Facebook・Club SAHEL

会員の赤塚さんにホームページのリニューアルをしていただきました。そのため、担当の榎本の他にも更新作業ができるようになりました。本来なら情報発信が増えるはずでしたが、更新回数には課題が残りました。

<2024年の計画>

赤塚さんのご尽力でホームページは改良されましたが、更新回数は以前のままです。現地の情報が少ないので、トラオレさんから送られてくるレポートを定期的にブログにアップできればと考えています。

今後も皆様からのご意見やご要望など、お寄せいただければ幸いです。

サヘル定例活動とサヘルキャンプ

サヘル定例活動の目的は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などです。自分の目で現場を見て歩き、感じたり、考えたりすることを大切にしています。現在の自然や街並みを楽しみ、歴史・文化の積み重ねなどを学んでいます。5年目になるコロナ禍の中で、直接人に会うコミュニケーションの大切さを実感しています。各地を訪ねると、昔ながらの場所もありますが、新しく変わっている地域も見られます。防災体験施設はリアルな体験ができ、参考になっています。

<2023年のサヘル定例活動報告>

2023年は新型コロナウイルス感染が収まってきたことを受け、8回実施しました。インフルエンザとコロナの増加もあり心配しましたが、無事開催できました。マスクをしておの開催でした。感染症はまだまだ油断はできません。

定例活動の報告は、スタッフブログで画像をつけて紹介しております。パソコンで「サヘル森スタッフブログ」を検索してご覧ください。

2023年度定例活動実施場所

2/18(土) 辰巳の森海浜公園と須崎神社、4/16(日) 和光市森林公園と大泉中央公園、6/18(日) 滝山城跡と少林寺、7/15(土) 日野ふるさと歴史館と黒川清流公園、9/16(土) 桐ヶ丘中央公園
--

と旧中山道、10/22(日) 大倉運動公園・砧公園、11/18(土) 東京臨海広域防災公園と埋立地、
12/17(日) 調布の仙川をさかのぼる

<2024 年のサヘル定例活動計画>

毎月 1 回、第 3 土曜または第 3 日曜に開催するように計画しました。参加する場合はメールなどで日付とともに曜日を確認してください。参加費はありませんが、別途施設の入場料がかかることがあります。体調に気を付けて、発熱などの場合は、無理に参加せず休養ください。楽に歩ける身支度、飲用水、昼食を持参して、ご参加ください。

2024 年度定例活動計画

期日	場所	集合場所	備考
2024 年 1/20(土)	荏原七福神 (品川区)	JR 京浜東北線「大井町」駅中央改札口 10:30	品川南部の荏原七福神
2/18(日)	和田堀公園と善福寺緑地 (杉並区)	京王井の頭線「西永福」改札 10:30	善福寺川、和田堀公園、善福寺緑地、太田黒公園
3/16(土)	片倉城跡公園と小比企丘陵(八王子市)	京王線「京王片倉」駅改札 10:30	八王子の南部にある城跡と丘陵地
4/21(日)	羽田空港西(大田区)	京急空港線「穴守稲荷」駅改札 10:30	穴守稲荷、ふるさとの浜公園、平和島の森公園付近
5/18(土)	八国山と古戦場 (東村山市)	西武国分寺線西武新宿線「東村山」駅改札 10:30	久米川古戦場跡、八国山緑地、鳩峰公園、南大谷公園
6/16(日)	小岩菖蒲園 (江戸川区)	総武線「小岩」駅改札 10:30	小岩菖蒲園、江戸川緑地、篠崎公園、江戸川水門
7/20(土)	ふれあい下水道 (国分寺市)	JR 中央線「西国分寺」駅改札 10:30	恋ヶ窪、ふれあい下水道、小平中央公園、玉川上水
8 月	—		
9/21(土)	練馬城址公園と光が丘 (練馬区)	西武豊島線「豊島園」駅改札	練馬城址公園、石神井川、光が丘春・夏・秋の公園
10/20(日)	野山北六道山公園 (瑞穂町)	JR「箱根ヶ崎」駅改札 10:30	駒形富士、文化の森、野山北六道山公園
11/16(土)	吉原と瑞光橋公園 (台東区)	JR「鶯谷」駅改札 10:30	吉原大門、遂行橋公園、塩入公園、墨田川、東白髭公園
12/15(日)	東綾瀬公園・中川公園 (足立区)	千代田線「綾瀬」駅改札 10:30	東綾瀬公園、中川公園、にいじゅくみらい公園、金町公園など
2025 年 1/18(土)	雑司ヶ谷七福 (豊島区)	JR 山手線「目白」駅改札 10:30	池袋駅の南東にある雑司ヶ谷七福神
2/16(日)	東京天文台(調布市)	京王線「飛田給」駅改札 10:30	味の素スタジアム、武蔵野の森公園、東京天文台、野川公園
3/15(土)	野崎稲荷と世田谷公園 (世田谷区)	東急田園都市線「駒沢大学」駅改札 10:30	駒沢公園、下馬中央公園、世田谷公園、

* 定例活動へ参加希望の方は、変更になることもありますので、事前にサヘルの森までご連絡ください。定例活動の緊急連絡は電話でお願いいたします。

TEL:042-721-1601 メール:sahel-no-mori@jca.apc.org 緊急連絡先:090-5754-2813(当日)



日野・仲田の森蚕糸公園



板橋・薬師の泉庭園



世田谷・豪徳寺招き猫

<サヘルキャンプ>

サヘルキャンプは集まって料理をしたり、手作業などをして、体験を楽しみ技術を学び交流を図るなどで実施してきました。コロナ以降、集まっての諸活動の自粛とともに、準備の手間がかかり、天候に左右されるなどのリスクのため、中断しています。サヘル定例活動の中で、どのような方法があるかを探っていきたいと思います。ご意見を願います。

地方での会員活動 奈良県（島岡てるみ）

2023 年はコロナもだいぶ収まったので、奈良にも修学旅行生や観光客が戻ってきました。夏や冬に仕事の合間をぬって、自宅で小さな集まりをもって、サヘルの森の話をしたり、マリのグッズの販売をしました。

2024 年 1 月に奈良県国際課から「サヘルの森の活動」についての問い合わせがありました。奈良はシルクロードの関係で、コロナ前にはだいぶ国際交流の活動もあったのですが、コロナからすっかり動きがなくなっていました。サヘルの森が関係しそうなイベントの時には声がかかりそうですので、その時にはお知らせできたら良いと思います。機会を見つけて、サヘルの森やマリの事を伝えて行きたいと思います。

地方での会員活動 千葉県（高津佳史）

上田さんがゴッシで撮影した写真を元に、「GOSSIーマリの美しい村 上田隆写真展」を開催しました。イスラム過激派の影響で訪れることもできなくなったゴッシの村や湖の美しい風景、村人の暮らしを 24 枚の写真で紹介しました。

展示場所をお借りした JICA 地球ひろばと JICA よこはまの皆様には、期間の調整や展示の際にもご協力いただきました。感謝申し上げます。

- ・2023 年 9 月 5 日（火）～9 月 18 日（月）：JICA 地球ひろば 2 階展示スペース
- ・2024 年 1 月 26 日（金）～2 月 28 日（水）：JICA プラザよこはま 2 階回廊

<2024 年の計画>

2023 年度は写真展を開催したため、恒例の「ジャパン・バードフェスティバル」には参加しませんでした。2024 年は参加したいと考えています。

監査報告書

監査の結果、特定非営利活動法人サヘルの森

2023 年度収支報告書(2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日)

及び貸借対照表(2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日)は、一般に

公正妥当と認められる会計原則に基づいて、作成されている事を認める。

2024 年 2 月 10 日

特定非営利活動法人サヘルの森

監事

柴 泰 登



監事

赤塚 秀子



代 表

高津 佳史

自営

運営委員

上田 隆

団体職員

榎本 肇

自営（事務局長）

工藤 義治

団体職員

久保 隆一郎

会社役員

高津 佳史

自営

古賀 直樹

会社役員

坂場 光雄

自営

島岡 てるみ

主婦

戸本 喜文

会社員

監 事

赤塚 秀子

主婦

柴 泰登

会社員

今年度の任期は2024年4月29日～2025年4月28日の1年間です。



2-01



2-02



2-03



2-04



2-05



2-06



2-07



2-08

2-01：斧の刃を鍛える野鍛冶

2-02：泥染めの模様を描く職人

2-03：丸太材から臼を削り出す臼職人

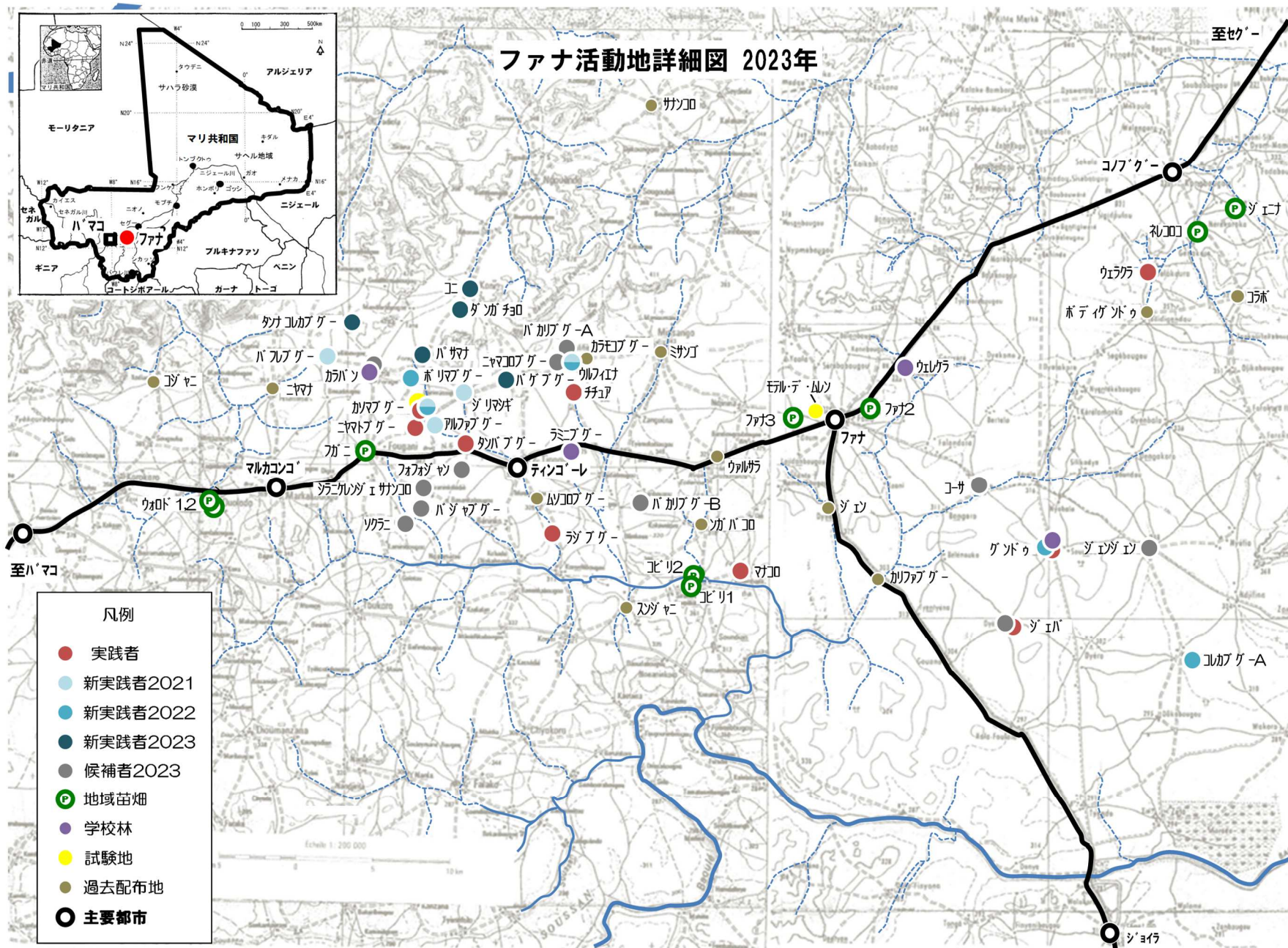
2-04：伝統的な細幅布を織る男性

2-05：アルミで鍋を作る鋳物師

2-06：村々を回り服の手直しを請け負う仕立師

2-07：籐材で椅子を作る籐細工職人

2-08：草でテーセイを編む女性





特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403

TEL: 042-721-1601 FAX は廃止しました
(不在の時は留守番電話に伝言をお願いします)

HP: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>
E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org